

## 平成20年度 教師海外研修（派遣国：マレーシア）実践報告書

1. タイトル 今わたしたちにできること！！ ～知ることから始めよう～

2. 氏名 藤本 努

学校名 豊中市立中豊島小学校 担当教科 全教科

3. 実践教科 総合的な学習の時間 時間数 4時間

4. 対象生徒・学年 6年 対象人数 33人

### 5. カリキュラム案

#### (1) 実践の目的

今回の教師海外研修に参加し、初めて知ることばかりでした。例えば、「パーム油」という言葉すら知りませんでした。そのパーム油を日本人が日常生活で多用していることもです。そのパーム油が抱える問題について知りショックを受けました。まずは、それを子ども達に伝えたいと思いました。パーム油の問題だけでなく、現在世界では「貧困・開発・環境」をめぐる様々な問題が起きており、これらの問題の多くは、私たち先進国の生活と密接に関わっています。そのことを知るために、1例としてマレーシアのパーム油の問題を紹介し、「自分たちの何気ない生活が世界中に影響を与えている」ことを子どもたちに伝えたい。そして今、自分たちにもできることがないかということ、子どもたちと一緒に考えたい。

#### (2) 授業の構成案

時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1 限目 テーマ： マレーシアを知る ねらい： マレーシアに興味を持つ	(1) マレーシアの位置を確認する (2) マレーシアボックス・フォトランゲージでマレーシアの文化を知る。	(1) グーグルアース (2) マレーシアボックス、写真
2 限目	(1) 前時の復習とマレー語のドラえもん	(1) ドラえもん

<p>テーマ：マレーシアについて調べよう</p> <p>ねらい：マレーシアについて理解を深める</p>	<p>んDVDの鑑賞</p> <p>(2) パソコンでマレーシアの基本情報やマレーシアの抱える問題について調べる</p>	<p>DVD</p>
<p>3 限目</p> <p>テーマ：マレーシアの動物たちが！！</p> <p>ねらい：マレーシアの動物が抱える問題を知る</p>	<p>(1) マレーシアの動植物の多様性を知る</p> <p>(2) ボルネオ象の抱える問題をDVDから知る。</p>	<p>(1) 写真など</p> <p>(2) 宇宙船地球号のDVD</p>
<p>4 限目</p> <p>テーマ：私たちの地球</p> <p>ねらい：今、自分たちにできることは何かを考えさせる</p>	<p>(1) パーム油とは何かを知り、自分たちの生活とこの問題とのつながりに気づく</p> <p>(2) 世界で起こっている環境問題を知る</p> <p>(3) 今、自分たちにできることを考え、それを書き発表する</p>	<p>(1) パームやしの種</p> <p>(2) 絵本2冊「ハチドリのひとつく」「あなたが世界を変える日」</p>

## 6. 授業の詳細

### 1 限目

#### ① マレーシアの位置を確認する

1 限目は、参観日に実施した。社会の時間に地図帳でマレーシアの位置を確認していたが、グーグルアースでもう一度、マレーシアの場所をみんなで確認した。

#### ② マレーシアボックス・フォトランゲージでマレーシアの文化を知る

マレーシアボックス・フォトランゲージをする前に、国旗クイズをした。それに続いて「マレーシアは、〇〇な国」という問題で知っている知識、また持っているイメージを学習カードに書かせた。マレーシア・ボックスックス（セパタクロー・虫の標本・軍票・イスラムコンパスとお祈りじゅうたん・漫画・教科書）で、マレーシアの文化や宗教、マレーシアと日本とのつながりなどについて紹介した。またフォトランゲージ（日本人墓地・博物館の壁画・トイレなど）でも同様に、マレーシアの生活や文化について紹介した。

#### <児童の反応>

マレーシアの国旗を見て、すぐにマレーシアと分かった児童がほとんどだった。

子ども達の持つマレーシアのイメージは、「暑い国」、「貧しい国」、「田舎な国」というような意見が多かった。

マレーシアボックスの中で一番人気があったのが、マレー語の日本の漫画（ドラゴンボール・コナン・ワンピースなど）だった。自分達を読んでいる漫画をマレーシアの子ども達も読んでいるということで、マレーシアに親近感を持ってくれたように思う。それ以外でも、初めて見るものばかりで何をするものなのかとグループで真剣に考えていた。漫画や壁画、日本人墓地などを通じて日本との歴史的・文化的なつながりについても学習することができた。

## 2 限目

### ① マレー語のドラえもんDVDの鑑賞

### ② パソコンでの調べ学習

1限目に興味をもったマレーシアについて、各自パソコンのインターネットを使い調べ学習をした。マレーシアの基本情報（人口・言語・面積・文化など）とマレーシアの抱える問題について調べ、学習カードに書かせた。

#### <児童の反応>

マレー語のドラえもんは、言葉は分からないものの内容が分かりとても楽しそうに鑑賞していた。また調べ学習で、子ども達が調べたマレーシアの抱える問題に、経済的な問題、医療の問題、貧富の差の問題などが挙げられ、日本とのつながりだけでなく、日本との違いについても学習を深めた。

## 3 限目

### ① マレーシアの動植物の多様性を知る。

ラフレシア・サイチョウ・テングザル・オランウータン・ボルネオ象などの紹介

### ② ボルネオ象の抱える問題をDVDから知る。

パーム油プランテーションを拡大するための森林伐採によって、野生動物たちの生活が影響を受けていることを知る。

#### <児童の反応>

授業の導入は、野生動物の写真を眺めていたが、後半は一転して児童の笑顔は見られなかった。それは、罨にかかった小象の話が児童にとって衝撃的な内容だったからだと思う。

子ども感想には、「象がかわいそう」、「象を助けてあげたい」、「もうプランテーションを拡大する必要はない」などの意見が多かった。DVDに出ていた「パーム油」については理解を深める必要があるので、次回の授業で詳しく学習することを伝え、この時間を終えた。

#### 4 限目

① パーム油について学習する。

パーム油については、クイズ形式で学習した。

② 世界で起こっている環境問題を知る。

今回はマレーシアに焦点を当て、熱帯林の破壊そしてそこで生活している動物が絶滅の危機に直面しているということを学習した。しかし、それ以外にも世界では、温暖化・酸性雨・砂漠化など様々な問題を抱えていることにふれた。

③ 今、自分達にできることを考え、それを発表する。

環境問題はあまりにも大きく一人の力では、どうしようもないように思われる。そこで、「ハチドリのひとしずく」の本（本①）を紹介した。一人の力では小さいからあきらめてしまうのではなく、ハチドリのように自分にできることをして欲しいというメッセージを込めた。

また「あなたが世界を変える日」という本（本②）では、みんなと同じ年齢の時にセヴァンという少女がリオデジャネイロで開かれた国連の地球サミットでの伝説のスピーチも紹介した。

#### <児童の反応>

パーム油については、すごい油だという理解はしていたようだ。しかしその反面、そのパーム油を使うことにより、前時で学習した罨にかかってしまう象がいるんだということを見ると複雑な気持ちになったようだ。

授業を終えた子ども達の感想は、「今すぐにパーム油を使うなって言っても無理だけど、少しずつ環境にいいことをしたい」、「ハチドリのように、たったひとしずくでもいいからリサイクルなどを少しずつ頑張りたい」、「レジ袋をもらわず、エコバッグを使用する」「このことを他の人にも伝えたい」などの意見があった。複雑な気持ちだが、自分にできることをしようという意識はもってくれたように思う。

#### 7. 授業を通しての所感・反省点

今回、教師海外研修に参加して、自分自身がまず世界の環境問題について勉強不足だなと感じました。私自身がこの海外研修で、感じたことをそのまま子ども達に伝えたいと思い授業計画を立てました。自分がほとんど何も知らなかったのも、子ども達にも、この現実を知ることから始めて欲しいなと思いました。

子ども達は、自分の知らない国についてすぐに興味を持ってくれました。前半部分は楽しく授業をしていましたが、後半では真剣に考えさせる場面を作り取り組みました。普段このような環境問題について真剣に考えることがなかったので、私にとっても子ども達にとってもいい機会だったと思います。最後の授業で、子ども達の意識が

だいぶ変わったように感じる事ができました。やはり知ることから始まるということで、その意識を次は行動に移し、それを継続させて欲しいと思います。

また私はこの海外研修で経験したことを、多くの人に伝えていきたいと思います。

## 8. 授業で使った資料など

<授業で使ったグッズ・写真の一部>

1限目 「マレーシアボックス」から



1限目 「フォトランゲージ」から





＜授業で紹介した本＞

- ① 「ハチドリの一としづく」 監修・辻 信一 光文社  
② 「あなたが世界を変える日」

12歳の少女が環境サミットで語った伝説のスピーチ  
セヴァン・カリス＝スズキ/著 ナマケモノ倶楽部/編・訳 学陽書房